

エネルギー環境教育に関する意見交換会〈九州教職員ネットワーク〉

平成24年度第2回意見交換会を開催しました

11月10日（土）に「第2回意見交換会」を開催しました。

今回は、九州各県から計16名の小・中学校の先生方にご参加いただきました。校務お忙しい中ご参加いただきました先生方、ご派遣いただきました学校長や各教科部会長はじめ関係の皆さまに心よりお礼申し上げますとともに、実施内容につきまして、以下のとおりご報告いたします。

意見交換会

開催日時：平成24年11月10日（土）11：00～16：05 会場：TKP天神シティセンター 8階会議室

☆参加者 九州各県の先生方

社会科 7名（小学校3名、中学校4名）

理科 8名（小学校4名、中学校4名）

技術・家庭科 1名（中学校）

計 16名（小学校7名、中学校9名）

☆講師

京都教育大学 山下宏文教授

長崎大学教育学部 藤本 登教授

福岡教育大学名誉教授 中村重太教授

福岡教育大学理科教育講座 坂本憲明教授

☆事務局（九州エネルギー問題懇話会） 青、神山

11：00 開会、自己紹介

事務局長の青から開会挨拶を行った後、講師4名とご参加の先生16名から、一言ずつ自己紹介をいただきました。

11：15 エネルギー環境教育の実践に関する講演〔山下講師〕

京都教育大学の山下講師から、「エネルギー環境教育実践の課題と工夫について」と題し、これからのエネルギー環境教育のあり方について、お話いただきました。

昨年3月に起こった福島第一原子力発電所の事故後、今後のエネルギー政策について様々な議論がなされる中、「この問題をどう考え、子どもたちにどう教えていくのか」といったエネルギー環境教育の課題に対する質疑応答が行われました。



12：40 意見交換会〔藤本講師、中村講師、坂本講師〕※山下講師：アドバイザー

“学校教育としてエネルギー環境教育をどう授業化するか”

[グループ討議：各教科混在2グループ]

① エネルギー・環境全般について考えるグループ（先生：8名）ファシリテーター：藤本講師

メンバーが、エネルギーや環境教育に関する授業実践を発表。切り口は異なるものの、「エネルギー問題や環境問題の解決に向け、自ら考え判断し行動できる主体的実践者を育てる」ための様々な取組みが紹介されました。それぞれの体験談を基にエネル



ギー環境教育を授業でどう扱っていくかについて、効果的な教育を行うための議論が活発に交わされました。

「エネルギー環境教育は包括的な内容であるため授業で扱うのは難しいが、教師が一步踏み出せば可能である。自ら考え判断し行動できる主体的実践者を育成するうえで重要なのは、それぞれの発達段階で必要となる教育を行い、その学びに連続性（スパイラル状に繋がっていく）を持たせることである」との結論に至りました。

<各発達段階での学び>

- ・ 小学校 子どもの意欲・関心を高めさせて、取組ませる。
- ・ 中学校 各教科での学習を通して価値判断させる。
- ・ 高校 さらに多角的に見て判断させる。

☆山下講師コメント☆

複数の教師から課題として挙げられた「賛否両面から考えさせることが難しい原子力の扱い」について

「原子力を扱うのは、震災以降非常に大事な問題。マスコミでは偏った意見しか出ていないが、それに対して多様な意見・見方があることを気づかせる、そのうえで、原子力の是非について判断させることが重要である」と教育の中立性の大切さを訴えられました。

② 教科別のエネルギー環境教育の実状について認識を共有、教科別にどう扱っていくのかを考えるグループ（先生8名）ファシリテーター：中村講師、坂本講師



メンバーが、エネルギーや環境教育に関する授業実践について、当該実践を通じて顕在化した課題を中心に発表。1班同様、様々な取組みが紹介されました。全発表終了後、それぞれの体験談を基にエネルギー環境教育を授業でどう扱っていくかについて、議論が交わ



されました。

「自ら考え判断し行動できる主体的実践者を育てるうえで重要なのは、まずは、エネルギー環境教育が何故必要なのか、何を狙っているのかを、自分がきちんと考え理解していること、そして、小学校・中学校間の連携を図ること（教育の流れを意識し、教育に連続性を持たせる）である」との結論に至りました。

☆山下講師コメント☆

議論の中心となった「エネルギー環境教育を総合的学習（クロスカリキュラム）の中に位置づけ、学校全体の取組みとすることが望ましい（文科省にモデルを示してもらおう）」とした意見について

「日本では、総合的学習の時間のカリキュラム内容は自由（学校側の独自性に委ねる）であるが、フランスではエネルギー環境教育を総合的学習として指定している。日本でもやっていると良い。事例を基にモデルを作り、それを実践していくというやり方は非常に効果的である」とコメントされました。

14:45 グループ毎の発表・まとめ

各グループによる討議結果の発表後、藤本講師の進行により質疑応答が行われました。

15:20 九州エネルギー問題懇話会からの情報提供[九州エネルギー問題懇話会 青事務局長]

青事務局長から、「再生可能エネルギーの問題等について」と題し、再生可能エネルギーの特徴、「再生可能エネルギー固定価格買取制度」の概要及びエネルギー・環境に関する選択肢について、情報提供させていただきました。



16:00 事務連絡

事務局より、今年度参加のお礼とアンケートご記入のお願いを行いました。

16:05 閉会

<会場での教材・資料展示>



当会のオリジナル提供教材を展示しました。

<準備物>



参考資料として、九州域内で使用されている、小・中学校の社会科、理科、技術・家庭科の教科書を準備しました。

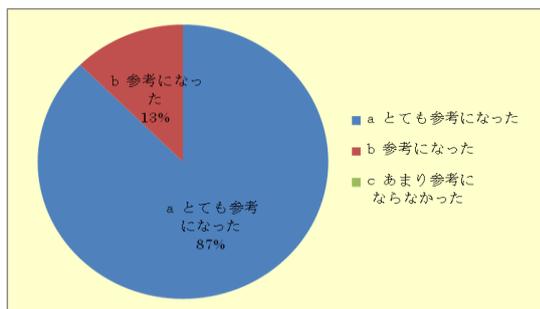
<当日の配布資料>



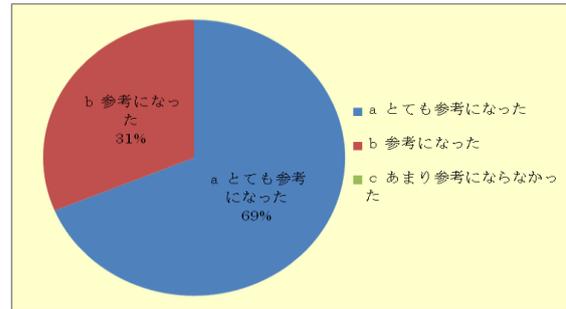
第2回意見交換会を終えて

[参加者アンケートから]

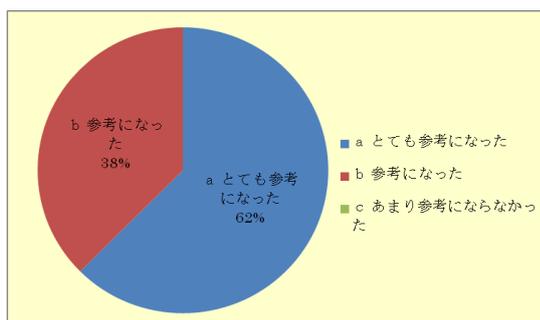
☆ 講演（山下講師）に関する感想



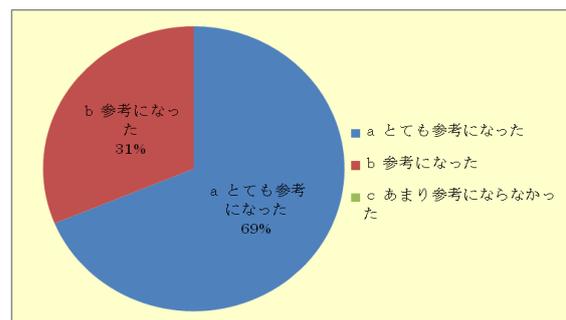
☆ 内容に関する感想（情報交換、グループ討議、まとめ）



☆ 九エネ懇からの情報提供に関する感想



☆ 全体として



<感想・ご意見>

- ・ エネルギー環境教育の重要性や取り組むべき方向性が分かった。この問題は、日々、情報が増えていくので、継続的に行っていくべきだと思った。
- ・ エネルギー環境教育の実践は、一度や二度の参加ではなかなか難しい問題だと思うので、継続的に参加していく中で、自分なりの考え方やものの見方、提供の仕方などをみつけていけると良いと思った。
- ・ 各県の先生方の取り組みを知り、参考になったと同時に刺激になった。
- ・ 「エネルギー環境教育」という同じ視点で、他教科・他校種の先生方からお話を伺うことができ、勉強になった。
- ・ 初めて参加したが、山下講師のお話をはじめ、とても学びの多い研修会であった。ご意見いただいたことを基に、今後より良い実践ができるよう、取り組んでいきたい。

校務お忙しい中、ご参加いただきました先生方、ご派遣いただきました学校長や各教科部会長はじめ関係者の皆さま、本当に有難うございました。九州エネルギー問題懇話会では、エネルギー環境教育の参考となる情報のご提供等を継続してまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

〒810-0001 福岡市中央区渡辺通 2-1-82 電気ビル共創館 6 階
(社)九州経済連合会 九州エネルギー問題懇話会 担当：神山
TEL：092-714-2318 FAX：092-714-2678 [HP] <http://www.q-enecon.org/>